




かながわの交通

8

よく見よう ゆ断の一步が 魔の一步



平成21年度清川村交通安全対策協議会会長賞
清川村立緑小学校5年(入賞時)・平田萌夏さんの作品

ハンドルキーパー運動推進中!
 **飲酒運転根絶!!**
 今日のハンドルキーパーさんは?

第43回二輪車安全運転全国大会出場の
神奈川県代表選手の皆さん

◎県内の交通事故発生概況 (7月末)

◎県人口・運転免許人口

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数		総数	男	女
平成22年		23,742	101	28,115	県人口	9,028,302	4,543,431	4,484,871
平成21年		24,676	91	29,181	免許人口	5,487,252	3,216,686	2,270,556
増減数		-934	+10	-1,066	割合	1.6人に1人	1.4人に1人	2.0人に1人
増減率		-3.8	+11.0	-3.7				

(県人口は7月1日、免許人口は6月末現在)

第43回二輪車安全運転全国大会

総合成績で準優勝

(財)全日本交通安全協会、二輪車安全運転推進委員会主催、内閣府、警察庁、文部科学省、(社)二輪車安全普及協会後援の第43回二輪車安全運転全国大会は、7月31日、8月1日の両日、三重県鈴鹿サーキットで開催され、本県チームは良く健闘して、団体総合成績で第2位を獲得しました。

● 第1日目

正午からサーキット内のクラホールで開会式、審判、選手のミーティングが行われ、午後1時30分から交通教育セ



「悪路応用走行」に挑戦中のBクラス杉山選手

● 第2日目

午前8時から競技が開始され、1日目とは逆のコースで

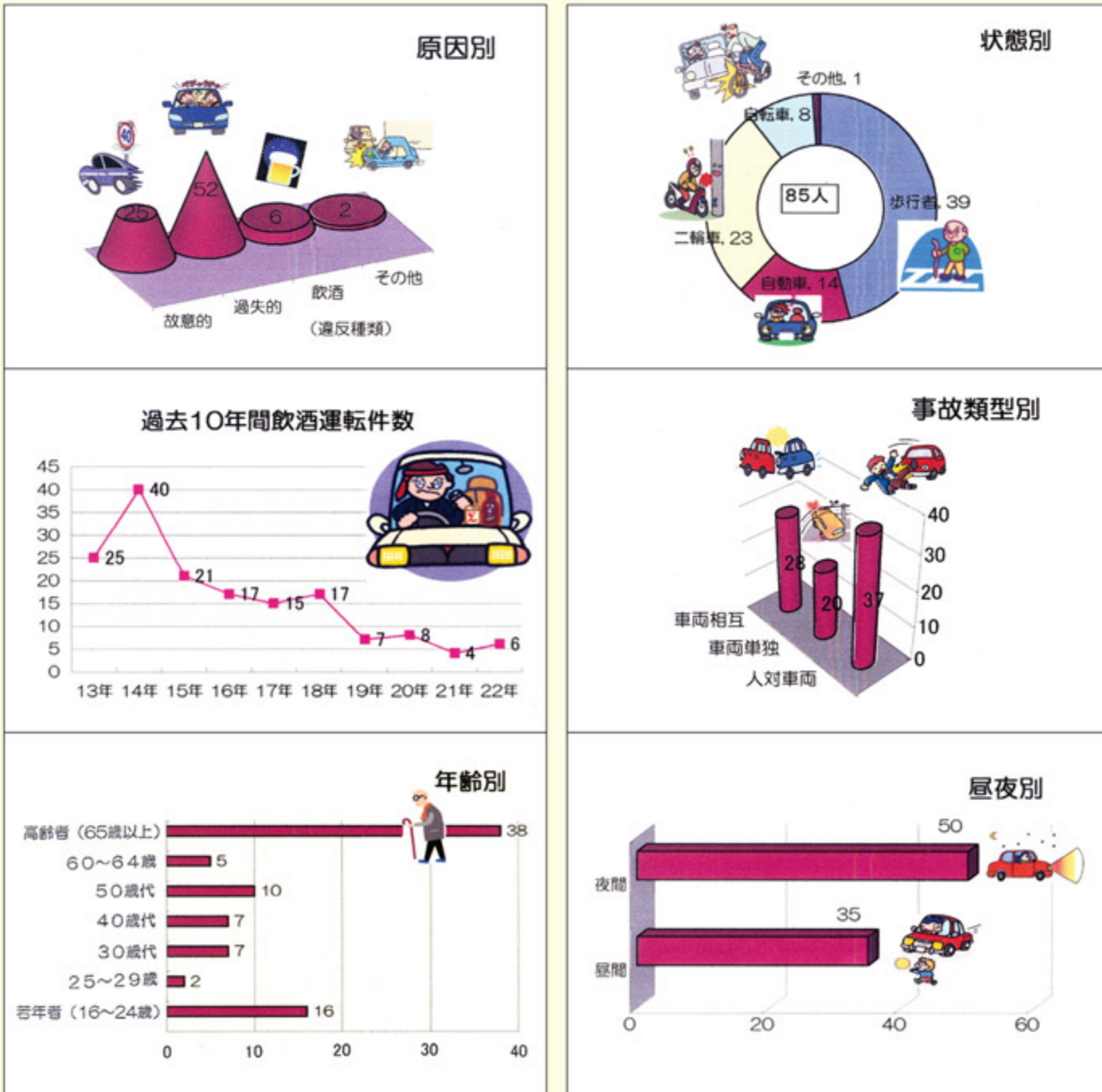


「応用千鳥走行」に挑戦中のAクラス芦田選手

センターの二輪車コースで競技が開始されました。競技は高校生等クラス及び女性クラスが法規走行ほかスラローム等5つの課題、一般A・一般Bクラスは応用千鳥走行等6つの課題に対して日頃の運転技術を競い合いました。採点は法規、技能走行ごとに持ち点(500点)からの減点方式で行われ、県代表の4選手は良く健闘し、1日目を終了した時点では、47都道府県中第1位でした。

交通死亡事故(上半期)の特徴 (交通死亡事故死者数85人の分析)

行われ、それぞれの課題に挑戦しました。競技は、炎天下の中で行われ、4選手は良く健闘し、良好な成績で終了しました。結果は、団体総合成績で第2位、個人成績では、女性クラスの須藤和子選手が第2位、高校生等クラスの四方悠介選手が第4位、一般Aクラスの芦田伸一郎選手が第4位、一般Bクラスの杉山盛二選手が第7位と全員が入賞するという堂々たる成績で終了しました。



タイムマシーンをあげたい (3)

警察官からみた交通死亡事故の回顧録

最後の言葉

ある夏の夜、事故処理の道すがら、遠くにヤツの爆音を聞いた。「またアイツか。あのやろう、警察をなめやがって。絶対ワッパかけてやる。」私は、唸るサイレンと暗闇に光る赤色灯に、興奮を必死に抑えながらハンドルを握っていた。すると、爆音をかき消すほどの轟音が辺りに響き渡り、それきり静かになった。

何が起こったかと、カーブの先に広がる闇に白い特攻服を探すと、なんと、カーブを曲がりきれずガードレールに突っ込み倒れ込んでいるヤツが、私の視界に飛び込んできた。

「いてえんだよ！ おまわり何見てんだ、早く助ける、この野郎！」ヤツは悪態をついてきた。私は、「なんだと、黙ってる。クソガキが」などと応酬しながら、救急車を要請した。こんなヤツだが、地面に脈々と溢れ出るおびただしい血流が、私を動かした。私は、ガードレールとバイクの間で不自然に曲がって挟まっているヤツの足を引き出そうと、懸命に救助活動を行った。



ヤツは「痛え、痛えよ。助けてくれ、頼むよ。」と最初の生意気さは消沈し、どんどん弱くなっていった。私は弱っていくヤツを見て、「早く助けなければ。救急車はまだか。」と焦りながら、いくら力を込めても微動だにしないガードレールと格闘した。知らず知らずのうちに、「頑張れ。弱気になるな。もうすぐ救急車が来るぞ。頑張れ。」とヤツを励ました。

どのくらいの時間がたったのだろうか、遠くに救急車のサイレンが聞こえてきた。「寒い：助けて：。」ヤツの声は消え入るほど小さくなっていった。見る見る青白くなるヤツの顔を見て、「死ぬな！ 頑張れ。」と叫んだが、ヤツの運命は動かし難かった。

「お母さん、助けて：寒いよ：」これが、ヤツの最後の言葉となった。私は、こんなヤツでも、最後に思い浮かべるのは家族のことなのかと、未だ息子の運命を知らされたくない母親に思いを馳せ、浮かぶ涙を拭わずにガードレールを叩き続けた。

トピック

7月23日
試験場の食堂が
リニューアルオープン



・営業時間：8：00～15：30
ご利用をお待ちしております。
運転免許試験場が休業時は休店です。



幸 鍋島 英暉
(4月26日付)



瀬谷 水谷 美子
(4月1日付)



金沢 山口 友美
(6月28日付)



平塚市 渡邊 光伸
(4月1日付)



逗子市 市川 信子
(4月1日付)



浦田 徳田 堅二
(4月1日付)

地区交通安全協会事務長人事 (敬称略)

交通ルール遵守の ためのロゴマーク

(Basic Design Manual)

交通ルールを守って つながる笑顔



昨年、全国の交通事故による死者数は、4,914人で、9年連続減少し、昭和27年以来57年ぶりに4千人台となった。政府は今後、平成30年を目途に死者数を半減し、2,500人以下とし、世界一安全な道路交通を目指すこととしている。この政府目標を実現するには今後、更に運転者のみならず歩行者を含めた全ての国民に交通安全意識の高揚方策を一層推進する必要があることから、全日本交通安全協会では、警察庁の指導により、交通ルールの遵守、マナーの向上に向けた広報啓発活動のシンボルとなるロゴマークを作成。人と擬人化した車を親しみやすく表現したデザインで、コピーは「交通ルールを守ってつながる笑顔」。子供から大人まで幅広い年齢層に「交通ルール遵守」を呼びかけている。

7月11日(日)、(社)日本自動車連盟、(社)日本自動車工業会、(財)全日本交通安全協会共催、神奈川県、神奈川



ESC (横滑り防止装置)
装着車両の体験乗車の模様

県警察本部、(財)神奈川県交通安全協会、神奈川県自動車ディーラー交通安全対策推進協議会等後援による平成22年度「セーフティトレーニング」が関東運輸局神奈川運輸支局で開催されました。このトレーニングには、抽選により選出された32名(男性25名、女性7名、最高年齢62歳)が参加しました。受講生は両日ともそれぞれ自分の愛車を持ち込んで参加し、開講式に引き続き、日本自動車連盟(JAF)のインストラクターの指導によりトレーニングが開始され

ました。
今回は、従来行っている「運転の基本(点検・乗車姿勢・死角)」や正しいハンドル操作等の基本項目に加え、AVS(衝突被害軽減装置の体験)や滑りやすい路面でのESC(横滑り防止装置)体験などのメニューが加わり、一層充実したものとなりました。
受講生からは、「ESCやAVSの体験ができて有意義でした。」などの感想が寄せられました。閉講式では日本自動車連盟神奈川支部松田事務所長から受講者全員に修了証が手渡され、トレーニングが終了しました。

「セーフティトレーニング」の開催



JAPAN 2010

神奈川県警察からのお願い

APEC 首脳会議開催に伴う交通規制の実施について



APEC 首脳会議等の開催期間中は、みなとみらい地区及び首都高速道路等において検問や交通規制を行う予定です。

みなとみらい地区周辺や首都高速道路ではかなりの渋滞が予想されますので、マイカー利用をお控えいただくなど、交通総量の抑制にご協力をお願いします。

交通規制の実施期間は、リーダーズウィークの

11月 7日(日)～8日(月) 2010年日本APEC最終高級実務者会合

11月 10日(水)～11日(木) 2010年日本APEC閣僚会議

11月 13日(土)～14日(日) 2010年日本APEC首脳会議

を中心に考えておりますが、行事日程等により前後することもあります。

詳しい情報については、神奈川県警察のホームページでご確認をお願いします。

平成23年使用

交通安全

年間スローガン(標語)募集

(財)全日本交通安全協会と毎日新聞社では、平成23年に使用する交通安全年間スローガン(標語)を次の要領で募集しています。ふるってご応募ください。

募集期間

平成22年9月30日(木)まで(必着)。

募集区分

- 1 一般部門AⅡ運転者(同乗者を含む。)に対するもの
- ① 運転マナーの向上(高齢者、子ども、身障者等への思いやり運転)
- ② 飲酒運転の根絶
- ③ すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- ④ 夕暮れ時の早め点灯の

促進

- 2 一般部門BⅡ歩行者・自転車利用者に対するもの
- ① 高齢者の交通安全(正しい横断など)
- ② 自転車利用者のルール遵守
- ③ 夕暮れ時、夜間の交通事故防止(反射材用品の活用など)

- 3 こども部門Ⅱ小、中学生自身に交通安全を呼びかけるもの
- 〒1000-8051
- 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 (郵便の場合住所不要) 毎日新聞東京本社事業本部「交通安全年間スローガン」係 (電話03-3212-0190)

発表

平成22年11月下旬の毎日新聞紙上及びNHKテレビ、ラジオで。

表彰式

平成23年1月下旬開催の第51回交通安全国民運動中央大会の席上に最優秀者を招く。(予定)

※ 交通安全年間スローガンの募集は、今年で46回目になります。昨年の募集には152、818点の応募があり、

本県在住者の作品も佳作に選ばれています。また、昨年の交通安全作文コンクールでは、本県在住者三人の作品が入選しています。

◆ 内容にふさわしい題名を付け、応募区分、住所、郵便番号、氏名(ふりがな)、年齢、職業、電話番号、応募の動機(ポスター、チラシを見て等)を明記

平成22年度

交通安全ファミリー作文コンクール 作品募集

テーマ「我が家の交通安全」

内閣府、(財)全日本交通安全協会、(社)全国交通安全

③ 一般・高齢者の部 応募方法

【小学生と中学生の部】

- ◆ 1、200字(400字詰め原稿用紙3枚)程度
- ◆ 内容にふさわしい題名を付け、応募区分、住所、郵便番号、氏名(ふりがな)、学校名・学年・学校所在地・郵便番号・電話番号を明記

◆ 内容にふさわしい題名を付け、応募区分、住所、郵便番号、氏名(ふりがな)、年齢、職業、電話番号、応募の動機(ポスター、チラシを見て等)を明記

※ 当日消印有効

募集区分

- ① 小学生の部
- ② 中学生の部

- ◆ 【一般・高齢者の部】
- ◆ 1、200字(400

co.jp

問い合わせ先

事務局(株)海風社内(交通安全ファミリー作文係)

電話06-6943-7155

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付交通安全啓

発担当 電話03-3581-1182

※ 詳細は、内閣府もしくは全日本交通安全協会ホームページをご覧ください。

〒540-0034

大阪市中央区島町2-1-10

ヤハギ天満橋ビル3F

(株)海風社内「交通安全ファミリー作文係」

Email:sakubun@kaifusha.co.jp

〒540-0034

大阪市中央区島町2-1-10

ヤハギ天満橋ビル3F

(株)海風社内「交通安全ファミリー作文係」

Email:sakubun@kaifusha.co.jp



ハンドルキーパー運動の紹介

その140 座間市交通安全協会から

～ クリアファイル・エコバックで
ハンドルキーパー～

座間市交通安全協会（山口欣司会長）では、ハンドルキーパーロゴマーク入りの「クリアファイル」、「エコバッグ」を各々5,000枚作製し、各種交通安全キャンペーン等で活用し、ハンドルキーパー運動の周知徹底を図っています。



その139 (財)神奈川県交通安全協会から

～ 「ハンドルキーパーバッジ」を
リニューアル～

(財)神奈川県交通安全協会では、「ハンドルキーパーバッジ」をリニューアルし、ハンドルキーパー運動を実践中の飲食店に配付しています。



その142 厚木警察署管内交通安全協会から

～ バーベキュー会場でハンドルキーパー～

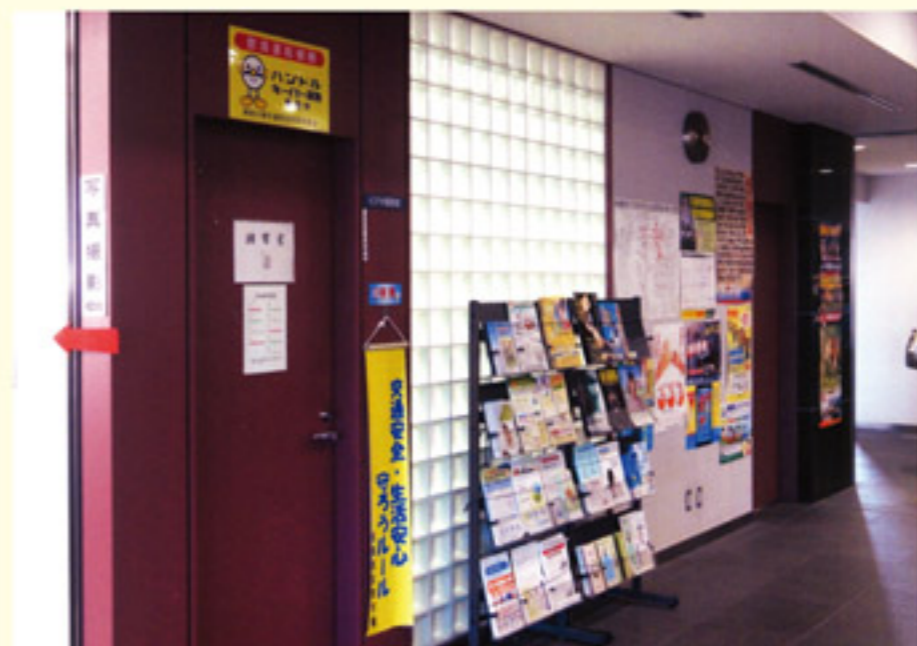
厚木警察署管内交通安全協会（石井廣好会長）では、海の日をはさんだ3連休に、田代運動公園際の中津川河川敷でバーベキューを楽しんでいる人達に啓発物を配布しながら、飲酒運転根絶のための「ハンドルキーパー運動」の実践を呼びかけました。



その141 相模原北交通安全協会から

～ ハンドルキーパー啓発板で
優良運転者講習受講者に意識付け～

相模原北交通安全協会（吉田實会長）では、相模原北警察署内に設置された優良運転者講習室入口にマグネット式「ハンドルキーパー運動」啓発板を貼付して、受講者にハンドルキーパー運動の意識付けを図っています。





相模原南交通安全協会
会長 関根 三夫さん

相模原市は、平成22年4月に、戦後に誕生した市としては初めての政令指定都市となり、全国で19番目の政令市となりました。区制が施行されて「南区」、「中央区」、「緑区」に分区され、相模原南交通安全協会は南区に位置しています。

発足以来三十数年を経た

当協会を取り巻く環境は著しい変貌を遂げ、今や、小田急相模大野駅を中心とした駅前周辺地区は、大規模商業施設、文化施設のほか、女子美術大学、北里大学などの文教地区を形成するなど、南区の骨格を成しています。

今回は、この地で交通安全ボランティアリーダーとして長い間活躍されている当協会の会長である関根三夫さんを紹介いたします。関根さんは、昭和44年4月に相模原交通安全協会の運営に参画したのを契機に、地区協会で数々の役

職を歴任され、平成5年6月に当協会会長に就任されました。業務運営に当たっては、警察をはじめとする交通安全関係機関・団体の方々と緊密な連携を図りながら、各季の交通安全運動のキャンペーンやパレードなどで強力なリーダーシップを発揮され、事業推進されています。

また、市の体育指導員、地域の自治会連合会長や街づくり活性化協議会長などを務められるなど、地域の安全・安心まちづくりの発展に寄与されています。こうした交通安全や地域のまちづくりの発展等に対する地道な活動が認められ、平成10年1月には、交通功労者としては最高位の「緑十字金章」を受章、更には、平成19年6月には県知事から多年にわたり県民生活環境に尽力された功労で「県民功労賞」を受賞されています。

ご家族は、奥様、息子さん

夫婦と2人のお孫さんに囲まれ、自宅に戻れば好々爺として悠々自適の生活を送っています。趣味は、学生時代に野球で鍛えた体力で、ゴルフ、バレーボール、テニスなどにも挑戦するスポーツマンでもあります。また、プロ野球は、熱烈なる巨人の大ファンとのことです。会長は、区内の交通事故の特徴であります高校生、大学生の自転車事故の撲滅に力を注いでおり、機会あるごとに高校や大学の近くで事故防止キャンペーンを行いながら自転車のマナーアップや交通事故防止を呼びかけています。多忙を極める中、健康管理に十分気をつけられ、今後とも活躍いただきたいと願っております。

(取材協力：相模原南交通安全協会)

インフォメーション

- 秋の全国交通安全運動
9月21日(火)～30日(木)
- シニアドライバースクール
9月12日(日)
- 「グッドライダーミーティング」の開催
9月25日(土)

こんにちは
川崎臨港交通安全協会です

川崎臨港交通安全協会は、昭和24年4月に発足し、現在は、警察署敷地内の一角をお借りして事務所を構え、職員3名で業務を行っています。

ご案内のとおり、臨港地区と申しますと、自動車排気ガス等の問題で知られている産業道路を境に、海側が工業団地、川崎駅側が住宅、商業地域を形成しています。こうした地域特性を背景に、各季の交通安全運動では、250の会社・事業所の方々と、28の町内会が主要交差点などにそれぞれテントを張り、大勢の方が交差点に溢れんばかり

に林立して交通指導に当たってくれています。初めて川崎臨港警察で勤務する交通課幹部はこうした協力態勢に驚いているくらい、交通安全に対する意識の高い地域であります。

また、一步、街中に入りますと、夕方には焼き肉屋さんから漂ってくる、食欲をそそる香りに、ついふらっと立ち寄りたくなる、そんなもう一つの顔を持つ街でもあります。

当協会の活動エリアは、川崎区役所の大師支所と田島支所に分かれています。各種キャンペーン等の開催に当たっては、大川原会長をはじめとする交通ボランティアの皆さんに加え、交通安全対策協議会、交通安全母の会、町内会役員等の皆様に



積極的にご協力いただき、大きな成果を上げています。

私たち協会職員一同は、「我がまち臨港」の交通安全に一役買っているとの自負のもと、笑顔絶やさず頑張っていますので、これからも皆様方からのご指導をよろしくお願いします。

(牛之浜 記)

地区交通安全協会の活動紹介



田浦 「海上自衛隊船越基地」で二輪車事故防止講習会を開催し、隊員に対する交通安全意識の高揚を図りました。



鎌倉・大船 「センチユリ自動車学校」で交通安全フェスタ2010を開催し、二輪車講習を通じて交通事故防止を呼びかけました。



秦野市 大型スーパー店舗前で行われた二輪車街頭点検を通じて、ライダーに交通事故防止を呼びかけました。



伊勢原 国道246号善波峠付近で「二輪車事故防止キャンペーン」を行い、ライダーに交通事故防止を呼びかけました。

神奈川 JR東神奈川駅周辺で、通行中の二輪車ライダーに、啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



鶴見 新鶴見ドライビングスクールで「二輪車安全運転講習会」を開催し、二輪車の安全運転の基本を学習してもらいました。



港南 京急「上大岡駅周辺」で、通行中の二輪車ライダーに、啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



中原 綱島街道「関東労災病院前」交差点付近で行われた二輪車街頭点検を通じて、ライダーに交通事故防止を呼びかけました。



あなたの会費が交通安全活動に役立っています

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。いつもボランティア精神で交通安全活動に携わっておられる皆様方に本欄を通じて厚く御礼を申し上げます。特に、先月行われた「夏の交通事故防止運動」では猛暑の中、地区交通安全協会の皆さんが中心となって事故防止活動を展開していただき緊急対策への歯止めをかけることもできました。さて、先日「交通安全子供自転車全国大会」が都内で開催され全国各地から小学生が集結し、日頃の技と知識を競い合いました。当県からは、13年間本県で連続優勝の小田原市立桜井小学校が出場し健闘いたしました。改めてエールを送りたいと思います。

昨年、自転車による事故が増加してきております。被害者にも加害者にもなりうるので、小さいときから自転車の交通ルールを守るよう指導を徹底していくことが大事であり、このような大会を通じて今後も働きかけをしていきたいと思います。

今年上半期の死亡事故を見ますと、自転車による事故が全体の1割で二輪車が3割、そして歩行者が4割に達しているところ。その中でも65歳以上の高齢者が全体の5割近い数字になっているのが神奈川県の特徴とも言われていますが、官民一体となった取り組みを今後も継続していくことを確認したいと思います。

夏本番です。気のゆるみから「大きな事故」につながる予想されませんが、お互いに思いやる気持ちとエコドライブに心がけて夏を乗り切り頑張りましょう。

(T・T記)